

最新の「陰謀論」取り締まり：ツイッターがワクチンへの 誹謗を潰すと発表

ワクチンが「害をもたらす」、「人口削減に利用」とかの掲載を削除する

RT (Russia Today)

Dec. 16, 2020



「誤った情報」は抑圧するという最新の方針により、ツイッターは、ワクチンの「陰謀」を含む掲載記事を削除する計画を知らせた。そこには、ワクチンは人に害を起こさせ、「人口を統制する」のに、計画的に利用されているという主張も含まれている。

来週から始まる計画で、この社会メディアの巨人は、「故意の陰謀を煽るような」、また「有害で間違った、あるいは誤導する物語」の、記事のすべてを削除すると言い、水曜日のブログで、これは特に、コロナウィルスに対するワクチン接種に重点を置くものと言った。

「テクノロジーと人間の批判を組み合わせ、我々はこの更新されたポリシーを、12月21日から実施し、後の週にわたって、我々の行動を拡大するつもりだ」と、それは言い、この新しいルールは、「地方的、国家的、かつグローバルな、世界中の公的保健機関の緊密な協力のもとに、これを実施する」と、この会社はつけ加えた。

スタッフが要求されることは、どんな記事でも、ワクチンが「意図的に害を起こさせるように、人口統制のために利用される」とか、「必要のない」主張をすべて削除すること、また、「広くウソの暴かれている間違った主張で、ワクチンを受けることの有害な影響や効果

を論ずるもの」である。しかし、保健関係役人と調整するという取り決めがある以外は、ツイッターは、「ウソが暴かれている」とは、どの主張が該当しているのかを、特定しなかった。

この会社はまた、次の年の初めから、「根拠のない噂や、反論されている主張、またワクチンについて、不完全な、もしくはコンテキストから外れた情報を拡散する」ツイートには、「警告」のラベルを貼ると言った。これは、それ以前の、類似の警告を貼る運動にも延長されるもので、2020年選挙のときの、大規模な選挙不正や詐欺を取り上げる記事にも延長され、米大統領ドナルド・トランプが、しばしば、この言論機関の検閲のターゲットとなったことも、その一つである。

(関連 RT 記事)

英や米のリーダーはワクチンを奨励、しかし注射に並ばない少数者がいる

ツイッターは次第に、締め付けを強め、年間を通じて一連の政策をアップデートし、「誤導情報」と彼らが考えるものを弾圧している。そして3月には、Covid-19に関連する「害がある」と思われる掲載記事を削除すると通告し、後には「それほど酷くない」パンデミックの間違った情報にも、一斉に警告ラベルを貼った。水曜日のルール変更は、これらの処置をもっと広く、ワクチン全体の記事について拡大し、今月初めにフェイスブックの取った同じ取り決めを踏襲した。

https://blog.twitter.com/en_us/topics/company/2020/An-update-on-our-continuity-strategy-during-COVID-19.html

https://blog.twitter.com/en_us/topics/product/2020/updating-our-approach-to-misleading-information.html

<https://www.rt.com/news/508578-facebook-covid-vaccine-false-claims-remove/>

コロナウイルス接種注射が世界的に、さまざまな規制者によって承認を受けるようになるとともに、ワクチンは、社会メディアやそれを越えたところまで、ますます熱い話題になっていき、その安全性や効果について、懸念を表明する記事にも及ぶようになった。アメリカとイギリスでは、ワクチンに対する懐疑は、周辺の見方どころではなく、最近の世論調査では、10人中の4人のアメリカ人が、「たぶん」または「絶対に」その注射は受けないと言っている。イギリスの「公衆衛生王立協会」(RSPH)が水曜日に発表した、ある調査では、そればかりか、少数者のある者たちは、免疫化に対してもかなり否定的であり、これはRSPH理事Christina Marriottによれば、「反ワクチン接種メッセージ」だという。

(関連 RT 記事)

Covid-19 についての「陰謀論」は脳の損傷から発する？ 疑わしい科学が、真の反対意見を病理化するために使われている

(訳者：説明は省略)



[訳者 Greatchain より]

この RT 記事はほぼ 6 か月前のもので、少し時代遅れではあるが、その間に何が起って今日に至ったのかを知る上で、却って貴重な情報になっている。まず、これはツイッターによる情報操作（彼らから見れば情報正常化）に関するもので、Twitter が問題になっているが、ここで彼らは、検閲は「Facebook のやり方を踏襲した」と言っているので、この 2 つが同じものであることがわかる。すなわち、前記事（「ファウチの終わり…」）で、「フェイスブックの作戦は連邦政府の延長」と言っているように、米政府と私企業のけじめが全くないという事情の中に、ツイッターも入ってくるのがわかる。

そしてこれを、国家的にさらに延長させると、この「検閲」に関しては、わが国の政府とのけじめもなくなってくる。そしてここから更に、One World Government と言われる「あの人たち」の理想世界が、すでに出来上がっていることがわかる。そしてこれを証明するものとして、バイデンの「当選した」あの選挙の不正や詐欺を、わが国政府では（メディアと共に）タブーとしている事情と、ワクチン接種についてもタブーを要求する検閲事情が、一つのものであったことがここからわかってくる。何という時宜を得た RT 記事だろうか！

なるほど、一つの統制された、理想の世界政府は、批判を禁止されたものとして、すでに存在していた。我が国の厚生労働省も、ファウチ博士の指令に歩調を合わせ、アメリカの

保健関係諸機関と一体のものとして、存在していた。あのどこかの離島で、高校生の集団ワクチン接種を受諾した方は、政府と厚生省だけが正しいのだから、それに従うと言っていた。よくわかる話ではないか！

そこで、もっとよくわかる、しかし、ある人々にとって残念な話は、あの恐ろしい権力者ファウチ——私に逆らう者は科学に逆らう者だと言ったファウチ博士——が、ほぼ完全に失脚したことである。

最後に、たった今（6月11日午後1時）Infowarsから入ったばかりのニュースを、一つだけお知らせしておく：

「ワクチン接種による心臓炎症の報告（複数）を受けて、CDCが〈緊急会議〉を招集」

——以上